

定例記者会見（発言内容要旨）

開催日 令和8年2月26日（木）10:00

場 所 庁議室

◆市長あいさつ

■先崎市長

各報道機関の記者の皆様には、年度末の大変お忙しい中、本日の定例記者会見にご出席を賜り、誠にありがとうございます。

日頃より本市の各種施策やイベントを取り上げていただくなど、情報発信にお力添えをいただいておりますことに、重ねて御礼申し上げます。

昨日は、久しぶりの雨でした。本当によかったと思えました。常陸太田市では、山林火災で約18ヘクタールが焼失し、那珂市消防本部からも、緊急応援隊を派遣しまして、明日まで現地で活動予定だと聞いております。1日も早く鎮火に向かうように願っております。

また、インフルエンザも少し勢力が強まり、市内の学校でも学級閉鎖がありました。

昨日の雨で、農家の皆さんにとっても、水不足が少しでも解消されれば、恵みの雨となってくればと思いながら昨日1日過ごしております。

さて、今月行われました衆議院選挙におきましては、積雪の予報などを受けまして、7日土曜日の期日前投票所は、投票に訪れた大勢の市民の方でこれまでにない混雑になったところでした。ピーク時には1時間ほどお待ちいただく場面もありましたが、駐車場の誘導や丁寧な案内整理なども行いまして、来場者のご理解とご協力をいただき、大きな混乱もなく無事に投票を終えることができました。

一部マスコミでも報道がございましたが、少々事件もございまして、当時現場にいらっしゃった方々にはご心配、ご不安をかけた場面もあったと思うのですが、全体としては滞りなく終了したと思っております。

選挙結果は、ご承知のとおり、自由民主党が圧勝して議席数を大幅に伸ばし、単独で3分の2を超えるという歴史的にも大きな出来事になったところでございます。

このような中、本市としましては、引き続き、国の動向を注視しながら、活力あるまちづくりに向けて、市勢発展の「礎」となる様々な施策に取り組み、それをさらに前に進めていきたいと考えております。

報道関係の皆様におかれましては、今後も本市の取組にご取材をいただくなど、情報発信にお力添えを賜りますよう、お願い申し上げまして挨拶とさせていただきます。



○令和8年度那珂市各種会計予算案について○

■先崎市長

昨今は、賃金の上昇や企業収益の改善など緩やかな景気回復が続いている一方で、物価上昇や人口減少による人手不足などの課題が顕在化しております。

本市においては、若い世代の転入・定住の促進や出産・子育て支援の充実を図るとともに、産業基盤の維持・強化に取り組むことで、将来にわたり安心して暮らせる活力ある地域の実現に向け取り組んでいく必要がございます。

新年度予算につきましては、第2次那珂市総合計画後期基本計画に掲げました、まちづくりの目標である「住みよきプラス活力あふれるまち」を目指して、各施策について計画的に進めるべく編成いたしました。

その結果、一般会計においては、予算規模として過去最大となります、前年度比9.4%、23億6千万円増の275億9千万円となりました。

特別会計については、国民健康保険特別会計（事業勘定）が前年度比3.3%減の50億3千万円、公園墓地事業特別会計が前年度同額の1千万円、介護保険特別会計（保険事業勘定）が前年度比4.0%増の52億円、後期高齢者医療特別会計が前年度比14.0%増の11億4千万円となりました。

次に、主な新規事業でございます。「生活支援商品券臨時配布事業」においては、物価高の影響を受けている市民への負担軽減と地域経済の活性化を図るため、全市民へ1人当たり5千円の商品券を配布する経費を計上しております。

「総合計画策定事業」においては、令和10年度からのまちづくりの指針となる「第3次那珂市総合計画」の策定に係る経費でございます。策定に当たっては、市民一人ひとりが安心して暮らせる活力あふれるまちとなるよう、持続可能な市政運営を念頭に、第3期総合戦略と一体化を図りつつ、実効性のある計画となるよう取り組んでまいります。

「雪まつり開催事業」においては、友好都市の秋田県横手市の雪で職人が作り上げる「かまくら」がみどころの「静峰ふるさと公園雪まつり」や幻想的な夜を彩る「静峰ふるさと公園イルミネーション」を開催するための経費を計上しております。

その他の事業としましては、子育て支援の充実として、子どもの発達の特徴を把握し、健やかな成長を支えるとともに育児不安の解消を図るため、「幼児健康診査事業」において、新たに5歳児健診に係る経費を計上しております。

また、「民間保育所等児童入所事業」において、全ての子育て家庭に対しての支援を強化するため、保育所等に在籍していない児童を対象とした「乳児等通園支援事業」、通称「こども誰でも通園制度」に係る経費を計上しております。

教育環境の充実に向けては、児童生徒一人1台の学習用タブレット端末の更新

（次のページに続く）

を計画的に進めるとともに、学校給食費の保護者負担軽減としまして、小学校給食費については、国の支援に加えて、国の基準額を超える部分を「いい那珂子育て給食費支援事業」において市が負担することにより無償化を図ってまいります。

本市の新たな活力を創造すべく進めております、複合型交流拠点施設「道の駅」につきましては、令和10年秋頃のオープンを目指し事業を進めているところですが、令和8年度は用地造成工事に係る経費に加えて、地場農産物を活用した飲食メニューや特産品の開発に係る経費を計上しております。

そのほか、公共施設の長寿命化対策として、本庁舎やコミュニティセンター、那珂聖苑の改修等を実施するとともに、交通の円滑化により地域の活性化を図る『菅谷飯田線道路整備事業』、『菅谷市毛線街路整備事業』、市民の安心安全な生活環境の向上を図る『道路改良舗装事業』、『冠水対策推進事業』など、社会資本の整備についても、引き続き計画的に進めてまいります。

以上が令和8年度当初予算の概要でございます。

一般会計の詳細につきましては、加藤企画部長から説明いたします。

■企画部長

はじめに、歳入でございます。

一般財源については、市税が76億8,225万7千円となり、2億862万3千円の増となりました。賃金上昇に伴う所得増などによる個人市民税の増や企業収益の改善などによる法人市民税の増などによるものです。地方譲与税をはじめ、各種交付金については、国の地方財政対策の伸び率などにより、それぞれ増減を見込んでおります。

次に、特定財源については、国庫支出金が、49億4,526万1千円となり、10億5,432万3千円の増となりました。これは物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金2億9,614万円の増などによるものです。また、県支出金については、23億2,636万9千円となり、3億2,615万3千円の増となりました。これは本年4月から始まる小学校の給食費無償化に係る交付金の皆増などによるものです。

市債については、25億9,350万円となり、7,280万円の増となりました。これは、菅谷飯田線道路整備事業債の増などによるものです。主な起債対象事業としましては、まちづくり振興基金に積み立てる基金積立事業に3億7,930万円、菅谷市毛線街路整備事業に3億3,460万円、菅谷飯田線道路整備事業に2億2,450万円、複合型交流拠点施設「道の駅」整備事業に2億1,680万円、下菅谷地区まちづくり事業に1億7,530万円、道路維持補修事業に1億6,340万円、土地改良基盤整備事業に1億3,790万円、道路改

(次のページに続く)

良舗装事業に9,300万円などとなっております。

その他については、繰入金が18億8,434万円となり、このうち、財源不足を補うための財政調整基金等からの基金繰入として18億6,500万円を計上しております。

続きまして、歳出になります。増減の大きなものについてご説明いたします。義務的経費については、136億6,091万円となり、7億354万9千円の増となりました。

扶助費については、年々増加しており、60億7,554万1千円、3億4,938万1千円の増となりました。増額となった主な事業は、障害福祉サービス給付事業や民間保育所等児童入所事業などでございます。

投資的経費については、普通建設事業費が、34億1,714万8千円となり、5億825万7千円の増となりました。主な事業としては、複合型交流拠点施設「道の駅」整備事業が4億8,340万円、菅谷飯田線道路整備事業が4億5,390万円、菅谷市毛線街路整備事業が3億6,472万円、下菅谷地区まちづくり事業が2億8,981万円などとなっております。

物件費については、46億4,444万8千円となり、7億3,990万4千円の増となりました。主な理由としましては、生活支援商品券臨時配布事業が皆増となったことなどによります。

また、補助費等については、27億6,191万9千円となり、1億6,382万3千円の増となりました。主な理由としましては、大宮地方環境整備組合負担金が増となったことなどによります。

以上が一般会計の概要となります。

先ほどの市長からの説明と重複するところもございますが、新規事業について、いくつか説明いたします。

「総合計画策定事業」及び「総合開発審議会設置事業」においては、今後10年間の本市の目指すべき将来像と、今後5年間の取り組むべき施策を明らかにする「第3次那珂市総合計画」を策定するものです。

「生活支援商品券臨時配布事業」については、物価高騰の影響を受けた市民の負担軽減と地域経済の活性化を図るため、全市民へ1人当たり5千円の商品券を配布するものです。

「雪まつり開催事業」については、友好都市の秋田県横手市との交流事業である「静峰ふるさと公園雪まつり」と「静峰ふるさと公園イルミネーション」を実施するものです。

「いい那珂観光活性化事業」については、道の駅整備に合わせて、地域に点在

(次のページに続く)

する観光資源を発掘し、観光プログラムを作成するものです。

「都市計画見直し事業」においては、民間開発の動向により、寄居地区西部の用途地域変更及び地区計画の策定をするものです。

「公民館施設整備事業」については、施設の長寿命化等を図るための基本設計を予定しております。

主な新規事業については以上となります。

私からの説明は以上でございます。

○令和8年第1回那珂市議会定例会に提出する議案概要等について○

■先崎市長

会期につきましては、3月2日月曜日から3月23日月曜日までの22日間を予定しております。

続きまして、令和8年第1回那珂市議会定例会に提出します、議案内容の説明になります。令和8年第1回那珂市議会定例会議案一覧に沿って説明をいたします。

今定例会に提出しました事案のうち、「報告」が1件、議案として「条例の一部改正」が10件、「条例の新規制定」が2件、「令和7年度各種会計補正予算」が2件、「新年度各種会計当初予算」が7件、「その他」が2件の、計24件でございます。

本日は、このうち、議案第15号、令和7年度那珂市一般会計補正予算（第9号）についてご説明いたします。

【議案第15号 令和7年度那珂市一般会計補正予算（第9号）】

予算総額から、歳入歳出それぞれ7,459万9千円を減額し、267億6,260万8千円とするものでございます。

歳出の主な内容については、各事業における契約額、所要額の確定等により、事業費を減額するものでございます。

増額補正をする主な事業は、総務費については、基金積立事業において、財政調整基金への積立金を増額し、地域公共交通活性化事業において、路線バスの運行維持に係る補助金等を計上するものでございます。

農林水産業費及び商工費については、国庫補助金の前倒し交付に伴い、アグリビジネス戦略推進事業において委託料等を、特産品ブランド化推進事業において広告料等をそれぞれ増額するものでございます。

また、土木費及び教育費については、国の補正予算に伴い、冠水対策推進事業において工事請負費を、小学校施設整備事業において、特別教室の空調設備整備に係る工事請負費をそれぞれ計上するものでございます。

諸支出金については、国県負担金等返納金において、前年度の精算による返納金を増額するものでございます。

歳入については、交付見込額の増などにより、地方消費税交付金、地方交付税を増額し、交付見込額の減などにより、法人事業税交付金、環境性能割交付金、地方特例交付金を減額するものでございます。

その他歳出補正予算との関連において、国庫支出金、財産収入、繰越金、市債を増額し、県支出金、繰入金、諸収入を減額するものでございます。

さらに、繰越明許費としまして、菅谷市毛線街路整備事業ほか14事業におい

(次のページに続く)

て、各事業諸般の理由により、事業費を翌年度に繰り越すものでございます。

なお、只今ご説明をしました、議案第15号 令和7年度那珂市一般会計補正予算（第9号）の概要につきましては、定例記者会見資料にお戻りいただきますと、3ページのほうで各種補正予算案の概要の中で、歳出についての主要なものを記載しておりますので、参考にして頂ければと思います。

議案の説明につきましては、以上となります。

○市政に関する告知事項○

■先崎市長

記者会見資料の表紙にありますように、今回は5件ございます。

【「2026八重桜まつり」を開催します】

日本さくら名所100選に選定されている静峰ふるさと公園において、「2026年八重桜まつり」を開催します。

園内には自然の丘陵地形を生かした広大な敷地が広がり、約2,000本の八重桜が満開となる景観を楽しむことができます。

毎年、春の訪れを感じられる名所として、家族連れや観光客など多くの来場者で賑わいます。

八重桜の名所は少ないので、桜100選の中でも、この八重桜がたくさん植えてあるということで、選ばれたのかなと私は今でも考えています。当時の先人の皆さんの努力に今でも感謝を続けているわけでございます。

期間中は、模擬店の出店をはじめ、4月19日日曜日のイベント開催日には、キッズダンスやよさこいソーラン演舞などのステージ企画を実施します。

また、期間限定で夜桜の公開も行い、ライトアップされた幻想的な桜の景色をご覧いただけますので、報道関係の皆様には、ご取材を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【令和8年度台南市交流事業～台湾・台南市でサイクリイベントに那珂市民が参加します～】

那珂市と台南市は令和6年に友好交流協定を締結し、交流事業を進めています。

その一環としまして、5月2日土曜日から5月5日火曜日までの3泊4日の日程で、台南市で開催されるサイクリイベントに、市に在学する4年生以上の児童生徒、那珂市に在学、在勤、在住する方々を派遣団として参加していただきます。

海佃(かいでん)国民小学校を発着点に、八田與一(はったよいち)氏が建設に携わった烏山頭(うさんとう)ダムまで往復約70kmを走行する国際交流サイクリイベントとなっております。

参加者は、嘉南平原(かなんへいげん)の歴史や水資源・環境について学びながら、現地参加者との交流を深め、国際感覚の醸成を図ります。

八田與一さんは台湾で尊敬される日本人の、おそらく代表的な方です。この方の業績や、いろいろなものもこのイベントを通じて学べるのかなと思っております。

つきましては、本事業の趣旨をご理解いただき、報道関係の皆様におかれましては、ぜひご取材を賜りますようお願い申し上げます。

(次のページに続く)

【那珂の端午の節句展を開催します】

那珂市歴史民俗資料館では、4月18日土曜日から5月6日水曜日まで「端午の節句展」を開催いたします。

本展では、端午の節句の由来紹介をはじめ、五月人形やかぶと飾り、のぼりなどを展示します。

さらに、市内手芸グループのキルティ工房さんによる、鯉のぼりやよろいかぶとをモチーフにした珍しい「端午の節句のつるしかざり」も公開し、地域文化の魅力を発信しておりますので、報道関係の皆様には、ご取材を賜りますようお願い申し上げます。

【茨城ロボッツ「那珂市の日」が開催されます】

4月4日土曜日の茨城ロボッツのホームゲームにおいて、市町村連携イベント「那珂市の日」を開催いたします。

当日は、市の魅力を発信するPRブースの設置や、特産品が当たる抽選会など、多彩な企画を予定しています。

また、市内在住者を対象に、抽選で100組200人を特別優待として招待いたします。

茨城ロボッツは熱戦を重ね、地域を大いに盛り上げています。

こうした盛り上がりの中で開催する本イベントの趣旨にご理解をいただき、報道関係の皆様には周知にご協力いただくとともに、ご取材を賜りますようお願い申し上げます。

【那珂市スポーツ協会講演会を開催します】

那珂市スポーツ協会では、3月15日日曜日に、元プロ野球選手で野球解説者のデーブ大久保氏（大洗町出身）を講師に迎え、講演会を開催いたします。

大久保氏は、現役選手として活躍後、指導者や解説者としても幅広く活動し、野球を通じて多くの経験を積んでこられました。

講演では「私の野球人生」をテーマに、現役時代から現在に至るまでの歩みを振り返りながら、競技を通して得た学びや困難を乗り越えた経験などについて語っていただきます。

本講演は、スポーツの魅力や挑戦することの大切さを広く伝える貴重な機会となっております。報道関係の皆様にはご取材を賜りますようお願い申し上げます。

なお、記者会見資料にはございませんが、5月24日に、浸水想定区域及び土砂災害警戒区域内の市民を対象とした防災訓練を実施いたします。

（次のページに続く）

まだ詳細が決まっておりませんので、皆様にご提供できるものは少ないのですが、訓練内容は、防災行政無線による避難呼びかけや避難所開設・運営訓練を実施します。また、なかL u c k y F M公園で災害時相互応援協定を締結している神奈川県海老名市の協力を得て、海老名市が所有する起震車による地震体験を行うほか、自衛隊の炊き出し訓練や民間事業者による講座などを通じ、多くの方に対し、日頃の備えの重要性や一人ひとりの防災意識の向上を図るために幅広い世代を対象とした防災体験会を開催します。

なお、詳細な内容については決定次第、改めてお知らせをさせていただきます。

報道関係の皆様におかれましては、時節柄、お忙しいとは存じますが、イベント等の開催に係る告知のご協力、並びにご取材等を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○質疑応答○

【令和8年度那珂市各種会計予算案について】

◆道の駅関連の予算は、資料のどこに明示してあるのか。

■企画部財政課長

令和8年度の複合型交流拠点施設「道の駅」整備事業の予算としては4億8,340万3千円です。お手元の「令和8年度那珂市予算内示資料」の24ページ、下から2番目に記載しております。

◆令和8年度の道の駅整備は、具体的にどういう整備の段階にあるのか。

■産業部長

令和8年度は、造成工事に着手する予定です。

◆「令和8年度那珂市予算内示資料」の2ページの下段に、道の駅整備事業4億8,340万3千円とあるが、同ページの上段に、複合型交流拠点施設「道の駅」整備事業に2億1,680万円とあり、この違いは何か。

■企画部財政課長

「令和8年度那珂市予算内示資料」の2ページの上段にある2億1,680万円は、財源として充当している市債の金額になります。

◆そうすると、複合型交流拠点施設「道の駅」整備事業費全体としては、4億8,340万3千円で、そのうち市債で充当するのが2億1,680万円という理解でよろしいか。

■企画部財政課長

はい、そのとおりでございます。

(次のページに続く)

◆令和8年度は、道の駅の造成工事とあわせて、飲食メニューや特産品の開発をするという話もあったが、もう少し具体的にお願いします。

■産業部長

今現在も建設準備委員会、第三セクター設立準備委員会、出荷者組合設立準備委員会の3つの準備委員会で、それぞれ取組を進めています。また、国の補助事業を活用し、調査等を行っていく予定です。

◆子育てや教育支援関連で、新規又は拡充策としての目玉は何か。

■企画部財政課長

先ほど市長及び企画部長からもご説明しましたが、令和8年度から小学校の給食費無償化という流れはありますが、那珂市としては、以前より「いい那珂子育て給食費支援事業」で、月額1,500円の補助を実施してきたということがあります。

今回、国の無償化に伴い、市から出す補助額自体は一部減額にはなりますが、全体として、これまで同様の質と量を確保できるように、給食費の支援事業を引き続き実施していきます。

また、「乳児健康診査事業」では、令和8年度から、新たに5歳児の健診を開始する予定です。

◆5歳児の健康診査は、発達の状況を調べるものか。

■企画部財政課長

就学前に、発達、発育状況や、健康状態を健診するということです。

◆今説明のあった「いい那珂子育て給食費支援事業」と「乳児健康診査事業」は、資料のどこに明示されているか。

■企画部財政課長

「乳児健康診査事業」は、「令和8年度那珂市予算内示資料」の23ページの1番下、「いい那珂子育て給食費支援事業」は、26ページの下から3番目になります。

【令和8年第1回那珂市議会定例会に提出する議案等について】

◆小学校特別教室のエアコンの整備について、今回、何校で何教室に設置する予定なのか。また、既に何校の何教室に設置されているのか。今回の設置で、市内の全小学校に設置されることになるのか。最後に、設置を完了する目安と、実際に稼働が始まる時期についてお願いします。

■企画部財政課長

令和8年3月補正につきましては、小学校3校を予定しております。整備計画については、一部の小学校では、既に特別教室に整備している学校もありますが、令和8年度から令和10年度までで、市内小学校の空調設備を完了する予定です。

◆今回導入される3校はどちらか。

■企画部財政課長

菅谷西小学校、五台小学校、瓜連小学校を予定しております。

◆こちらの3校の特別教室は、具体的にどの教室か。

■企画部財政課長

学校によって異なりますが、音楽室、図工室、理科室、家庭科室等です。

◆この3校で、計何台設置の予定か。

■企画部財政課長補佐（総括）

整備台数は、17台になります。

◆3校で17台を導入予定ということで、令和8年度から令和10年度までの、3年がかりとなるのか。

■企画部財政課長補佐（総括）

3校については、令和8年度で普通教室と特別教室の空調整備は終わります。

従来、例えば、音楽室の空調整備であれば、全校の音楽室を整備するという仕方をしてきましたが、令和8年度からは、学校の導入されていない教室に導入し、学校単位で整備を終わらせていくということで、令和8年度で、まずは小学校3校の空調整備が完了します。それを令和10年度までに全小学校の整備を完了させるということになります。

【市政に関する告知事項について】

◆水戸ホーリホックの新本拠地が笠松運動公園になるのではないかという話がある中で、もしそうなった場合の、市長として期待感や懸念などはあるか。

■市長

まだ報道で少し目にしたという段階で、水戸ホーリホックさんからも、茨城県や関係機関からも、まだ話はありません。

そのため、現在どういう状況なのかは分かりませんが、笠松運動公園陸上競技場が候補になっているということであれば、陸上競技場の所在地は那珂市向山になるので、水戸ホーリホックのホームグラウンドになるということであれば、市民にも勇気を与えるような、非常に大きなトピックになると思います。もし、そういう動きが出てきた場合には、那珂市としてできることは精一杯応援をしていきたいと思っています。

これまでもホームタウン推進協議会の一員として、いろいろな形での応援はしていますが、さらに本拠地が那珂市向山と表記されるということになれば、市を挙げて応援をしていきたいと思っています。

サッカーに関わっている子供たちや指導者等が、那珂市にもたくさんいますので、そういった意味では、これからも支援をしていきたいし、また、一つの大きなインパクトになると思っています。

那珂市にも、那珂川沿いに那珂西リバーサイドパークという、サッカーコートが3面とれる公園がありますが、土、日曜日は県内外からたくさんの方がいらっやって、いろいろな大会や試合を行っています。

先日も、現地に行ったところ、他県からもいらっやっていて、少年サッカー大会が行われていました。

インターチェンジに近いということで、非常に地の利もありますので、水戸ホーリホックの本拠地が笠松運動公園陸上競技場になった場合は、国道6号沿いですし、高速道路を使って全国からいらっやる方もいるでしょうから、那珂市としてもいろんな形での応援をしていきたいと思っています。

まだ細かいお話があったわけではないので、正式には答えられませんが、期待感としてはそのようなところです。

(次のページに続く)

◆今の話で、細かい話があったわけではないということだが、もし決まった場合に、市としてできることはしていきたいというのは、例えば道路整備とか、具体的にはどういうことを考えているのか。

■市長

インフラ整備については、県も関わりますので、那珂市だけではできないかもしれませんが、盛り上げるという意味での体制づくりでいえば、例えば、市内にはたくさんの方々がいるでしょうから、そういう方々に声をかけて、那珂市応援団みたいなものをつくるか、まさに地元ということを考えれば、そんなことはできそうではないかなという感じはします。いろいろなものを整備するというのはまだまだ先になると思うのですが、雰囲気盛り上げるという意味での応援は、できることをやっていきたいという感じです。

◆水戸市では、定住人口促進のため、市が管理する駐輪場の市外在住者の定期利用料を値上げすると発表しましたが、駐輪場の利用者の7割は市外在住者ということで、那珂市民にもかなりの影響があると思いますが、市長は、こういう動きに対してどうお考えですか。

■市長

それぞれの市町村の事情があると思います。どの市町村も、財政が非常に厳しい中で事業を進めておりますので、その中で一つの発想だと思うのですが、それぞれの市町村の事情を考えれば、理解する部分もあります。

現在、水戸市を中心に、9市町村でいばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンを策定し、進めてきました。そういった中で、水戸市を中心に9市町村がどうまとまっていくかという中では、これまでも歴史や文化、商業等、いろいろなものの中心が水戸市だったわけですから、水戸市ももう少し懐深くして頑張っていたらいいと思います。

若い人たちが戻ってくる環境をつくる時に、例えば、那珂市だけでは難しい状況があります。しかし、ひたちなか市に産業があったり、水戸市に商業があったりと、いろいろなところがある地域で、那珂市には帰って来られないが、この地域には帰って来られるという環境をみんなで作ろうということで、大学とも連携したりして、取り組んでいます。

私たちとしては、この地域がまとまって行って、相互交流して、定住人口を増やしていく、水戸市だけがなくなるわけではなくて、それぞれの地域の特色とか、良いところを生かして、住み続けられる地域をつくっていくという考え方からすると、少し残念な感じはしています。

(次のページに続く)

◆水戸市長も、いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンの話はされていて、それは継続し、いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンの範囲外は全部差別化していきたいということに対し、周辺自治体が黙っていると、どんどん差別化されていくということになると思うのだが、市長が政治家としてどうしていきたいか、残念という以外に何か思うところがありますか。

■市長

今のところ回答は持ち合わせていません。